

# 植生の復元・管理

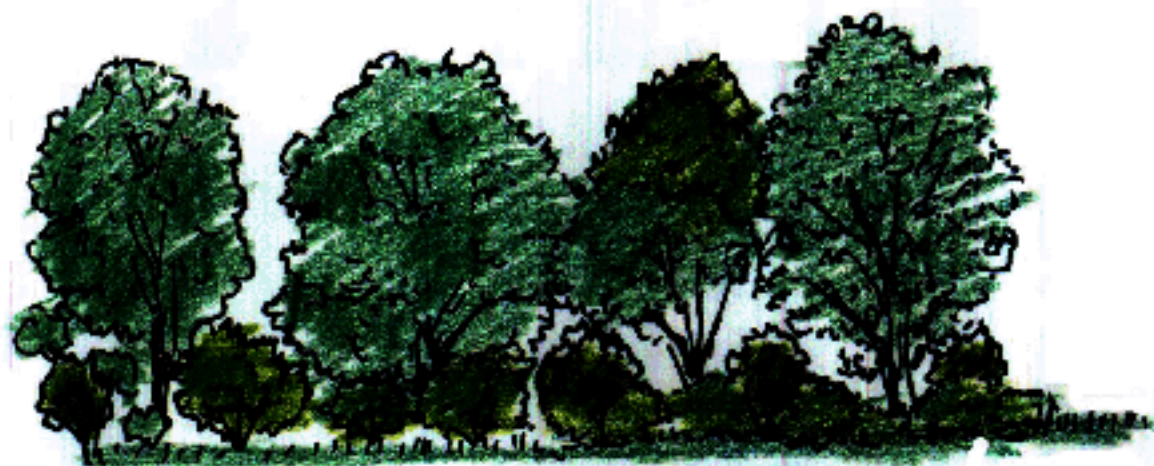
## ●植栽で自然を取り戻す

自然を取り戻す基礎の一つである植栽を行う際には、その場所の自然植生を調べ、地域の自然を守り育てるという観点から、復元する植生の目標を立てます。植栽をしようとする土地の面積や人間の社会的な要望、生きものの保全など多くの面を考慮し検討することで、その場所に適した復元目標を立てることができます。

人間が手をかけなくなると植生は移り変わっていきませんが、この「遷移」にまかせておく場所以外にも雑木林のような人の手が入ることで維持される場所をつくると、明る

い林や暗い林など変化に富んだ環境が生じます。林のタイプに応じて、生息する昆虫や林床に生育する草花の種類が異なります。目標とする植生が決まって実際に植物を植栽する際には、園芸種や外来種でなく、その土地にもともと生えていた種類を選ぶと、地域の生態系の復元・創造に結びつけることができます。ただし地域の植物と同じ種名のものであっても、遠方から取り寄せたものを植えることは避け、できるだけ近くの地域から取り寄せるか、付近にあった実生を育てて植えるとよいでしょう。

自然の森林は高木層から草本層まで、多様な構造を形成しており、いろいろな生きものが生息することができる。



## ●自然の森林は多層構造

自然の森や林の多くは、高さに応じて「高木層」「亜高木層」「低木層」「草本層」と多様な種類からなる階層を構成しています。

一方、人工林や公園・街路樹などでは、管理のしやすさや見た目の美しさを重視して修景的な樹木配置や幾何学的な剪定、枝おろしをするため、自然の森林のような階層構造があまりみられません。植栽により自然を復元する際にも、その土地にもともと生えていた植物を用いるだけでなく、階層構造を意識すると、変化に富んだ、より自然に近い環境を生み出すことができます。

森林から草原などへの移行帯はエコトーンと呼ばれ、多様な自然環境を形成している。ツル性植物や中低木によるマント群落には林内を乾燥や風雨から守る役割もある。



マント群落

## ●林縁部の植生を考える

林や森の縁には、林内に比べ太陽の光が多くあたることから、落葉中低木やツル性の植物がヤブをつくっています。このヤブは様々な野生の生きものが生息しているだけでなく、林内を乾燥や風雨から守る役割も果たしています。

このように林縁部のヤブは、森林への周囲からの悪影響を防ぐ緩衝帯としての役割をもっています。林縁部に植える植物のあり方を意識することで、より多くの生きもののすむ林や森を育てることができます。